

令和6年9月17日

南の風 518

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

鈴木 良和氏の「大事なことを優先できる選手に育てる」の続きです。

緊急なものはだれでも優先することができます。バスケットボールで成果を出したければ、緊急でないけれど大事なことに時間を使うことが大切です。自主練習はいつまでたっても「緊急なこと」にはなりませんから「今やらなければならないこと」にはならず、動き出すのにエネルギーが必要です。

ここで「大事なことを優先する」という価値観を持つことが重要になるのです。

時間は有限です。大事ではないことに多くの時間を割いては、思うような成長は望めません。特に、選手たちは「大事ではないが緊急なこと」に時間を奪われやすいのです。

偉大な競技者への道は非常に険しく、厳しい道です。多くの人が楽な方へ流されてしまう中で、目的意識を持って道を見失わず、大事なことに時間を割き続けることができる選手だけが道を登り続けられるのです。

次に「相乗効果的なチームになるために」についてです

偉大なチームは、メンバー同士が「相乗効果的」な関係になります。「マスターマインド」といって、同じ願望や目標を持った人間の集まり、波長の合った思考のバイブレーションが起こることで、一人ひとりができることを総和した以上のことを成し遂げることができるのです。

相乗効果的なチームになるためにまず大事なことは、一人ひとりが相乗効果の土台となる価値観を持つことです。それが（価値観『個人として持つべき考え方』）です。私的に成熟した選手同士が影響し合うことで公的な成功がもたらされるのです。

私的に成熟していくためにも成長の原則があったように、相乗効果的な関係を作るうえでも原則があります。その一つが「勝ち負け思想」に陥らないということです。

スポーツには勝ち負けがつきます。自分が勝つということは相手が負けるということですから、スポーツに取り組む人々は知らず知らずのうちに勝ち負け思想になりがちです。

勝ち負け思想の人は、自分が得するためには相手が損してもいい、自分が成功するためには相手は失敗してもいいという考え方になりがちです。この思考でチームメイトと影響しあったら、素晴らしいチームワークを作り上げることはできません。

相乗効果的なチームワークを作り出すための第一歩は、相手が良くなること、成長すること、成功すること、応援できる関係を築くことです。勝ち負け思想が強いと、このことを達成するためには自分が「負け」を選ぶことだと考えがちです。「僕のことなんてどうだっていいから君に譲るよ」といったような、へりくだって一見人が良さそうに見える対応も、相乗効果的なチームワークにつながりません。

相乗効果的なチームワークを作り出すためには、自分も喜ぶし相手も喜ぶことを常に考える習慣が重要です。次号に続きます。